

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 21	15	百日咳	↗ 5	2
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	→ 164	164
咽頭結膜熱	↘ 21	26	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↗ 15	13
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↘ 112	114	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 411	432	流行性角結膜炎 (はやり目)	↗ 21	12
水痘	↗ 67	62	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↘ 66	103	無菌性髄膜炎	↗ 3	0
伝染性紅斑 (りんご病)	→ 2	2	マイコプラズマ肺炎	↗ 2	0
突発性発しん	↗ 39	35	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	↗ 7	6

報告が多い  
感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎：山鹿、菊池、有明  
手足口病：人吉  
ヘルパンギーナ：菊池、宇城  
咽頭結膜熱：山鹿  
百日咳：菊池

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフル エンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性レンサ球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)
熊本市保健所			10	38	69	7	21	2	17		30	9		16		3	1		4
山鹿保健所			2	2	28	1	1		2		1		*	*					
菊池保健所	2		3	25	84	5	5		8	5	63	1							
阿蘇保健所					3								*	*					
御船保健所					3	1					3		*	*					
八代保健所				2	25	19	7		3		5	1							
水俣保健所				5	11	5	1		2		7		*	*					3
人吉保健所	9			7	39	5	6		2		5		*	*					
有明保健所	2		2	6	83	2	13		4		11	1		2					
宇城保健所			1	23	42	7	6				23	2	*	*					
天草保健所	8		3	4	24	15	6		1		16	1		3			1		
計	21		21	112	411	67	66	2	39	5	164	15	0	21	0	3	2	0	7

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以 上	
インフルエンザ	21				3	4	3		1	2			3	1			2	2				
小児科定点年齢	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以 上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	21		7	9		3	2															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	112			1	4	14	19	12	14	16	13	5	13		1							
感染性胃腸炎	411	6	38	53	40	44	29	30	29	19	20	16	52	10	25							
水痘	67	2	3	10	9	21	10	8	2			1	1									
手足口病	66		4	23	16	9	2	7	1	2	1	1										
伝染性紅斑	2		2																			
突発性発しん	39		16	16	6				1													
百日咳	5													5								
ヘルパンギーナ	164	2	18	47	29	28	16	19	1	2		2										
流行性耳下腺炎	15			3	1	2	1		2	1	2	1	1	1								
眼科定点年齢区分	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以 上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	21							1						2	2	4	4	1	2		5	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以 上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	3		1			1												1				
マイコプラズマ肺炎	2			1				1														
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	2	4	1																		

今週は、菊池から百日咳の報告が5件あり、定点あたりの報告数が  
警報レベルに達しました。  
報告のあった5件の年齢はすべて10~14歳でした。  
昨年度は1年間で6件の報告数でしたが、今年は23週までで  
23件の報告があります。今後、さらに感染が広がらないよう  
「予防のポイント」を参考にして、百日咳の予防に努めてください。

百日咳とは、百日咳菌という細菌に感染しておこる急性の気道  
感染症です。特有のけいれん性の咳発作を特徴とし、いずれの  
年齢でもかかりますが、特に新生児や乳幼児では重症化しやすく、  
無呼吸発作や肺炎、脳症などをおこして命にかかわる場合があります。

生まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんから胎盤をとおして移行抗体と  
いう免疫をもらっています。この移行抗体によって赤ちゃんは感染症  
から守られていますが、残念ながら百日咳菌に対してはお母さん  
からの移行抗体が期待できません。ですので、生後3ヵ月になったら  
できるだけ早く、百日咳ワクチンを含む四種混合ワクチンを開始される  
ことをお勧めします。

感染経路

主に、百日咳にかかった人の咳やくしゃみなどに含まれる菌を吸い込むことにより感染します(飛沫感染)

☆☆予防のポイント☆☆

- ①定期予防接種:百日咳のワクチンは四種混合ワクチンとして、生後3ヵ月から接種できます。  
標準的な接種スケジュールは以下のとおりです。  
・1期初回:生後3月から生後12月に、3~8週の間隔を置いて3回接種  
・1期追加:1期初回終了後6ヵ月以上の間隔を置いて  
(標準として初回終了後12ヵ月から18ヵ月の間に)1回接種
- ②長引く咳を認める年長児や成人は、新生児や乳幼児に近づかないように配慮し、早めに医療機関を受診しましょう。
- ③咳エチケット:咳やくしゃみをするときは、ティッシュペーパーなどで口と鼻をおおい、人にかからないようにしましょう。

百日咳を予防しましょう



KKT医療ナビ!  
Dr. Televitan

KKT 医療ナビ! Dr. Televitan

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課